

その他有価証券評価差額

870百万円

前年度末より448百万円減少し、870百万円となりました。

【その他有価証券評価差額】

有価証券は「金融商品に関する会計基準」により、「売買目的有価証券」「満期保有目的の債券」「子会社株式及び関連会社株式」「その他有価証券」に区分します。「その他有価証券評価差額」とは、「その他有価証券」の時価と取得原価との差額のことをいいます。この評価差額から税金相当額を控除した金額を「その他有価証券評価差額金」として「純資産の部」に計上しています。

不良債権の状況

「リスク管理債権」「債務者区分に基づいて区分された債権」とも該当する債権はありません。

【リスク管理債権】

貸付金のうち、元本や利息の回収の可能性に注意を要する（返済状況が正常ではない）債権を示し、破綻先債権、延滞債権、3か月以上延滞債権、貸付条件緩和債権の4つに分けられています。

【債務者区分に基づいて区分された債権】

貸付金や貸付有価証券等の債権を債務者の財政状態や経営成績等をもとに、破産更生債権およびこれらに準ずる債権、危険債権、要管理債権、正常債権の4つに区分したものです。

事業の概況

2019年度の各種概況

当期における日本経済は、2019年10月の消費増税により個人消費が落ち込み、さらに年度末にかけて新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響から経済活動が停滞したことなどにより、企業業績や雇用・所得環境の先行きに不透明感が強まりました。損害保険業界においては、前期に引続き大規模自然災害の対応に尽力したことに加え、新型コロナウイルス感染拡大に関連した契約者保護の各種取組みを推進するなど、社会インフラとしての役割を果たしてきました。このような環境の中、当社は以下のとおり、着実に事業活動を展開し、業績拡大を図りました。

ソニー損保の取組み

当社は、主力の自動車保険を中心に、ウェブサイトやカスタマーセンターを通じたダイレクト型の損害保険事業を展開しており、お客様に価値を感じていただける独自性や納得感のある商品、高品質で信頼できるサービスの提供を目指しています。当期においても引続き、お客様の声を活かした商品力の強化、契約手続から保険金支払に至るサービス品質の向上を図るとともに、当社の特長をわかりやすく伝えるマーケティングに努めた結果、自動車保険に加え、医療保険・火災保険・海外旅行保険など各種目とも販売が拡大しました。

商品面では、自動車保険において、2019年4月に、前契約で等級ダウン事故等がない場合に保険料を2,000円割引く「無事故割引」を新設したほか、2020年3月には、AI等の先進技術を活用することで、事故リスクの低い運転をされたお客様の保険料を最大30%キャッシュバックする運転特性連動型自動車保険「GOOD DRIVE」を発売しました。GOOD DRIVEは、自動車保険の本来の役割である万一の事故時の補償やサービスの提供のみならず、お客様の事故リスクの低減、ひいては交通事故の少ない社会の実現に貢献するといった、新たな価値の提供を目指した自動車保険です。

サービス面では、お客様の声を活かした新たなサービスの導入やサービス品質の向上に継続的に取り組まれました。その

結果、外部評価機関による自動車保険・火災保険などの顧客満足度調査において、今期も業界最高水準の評価を獲得しました。また、耳や言葉の不自由なお客様向けの契約対応や事故対応に「手話・筆談サービス」を導入したほか、日本語以外の18言語に対応した「外国語事故対応サービス」を導入しました。

マーケティング面では、自動車保険において、引続き「安心を、もっと安く。」をテーマに、テレビCMやインターネット広告を積極的に展開し、ダイレクトならではの合理的な保険料と、万一の事故の際にもご安心いただける充実した補償やサービスを幅広く提供していることを訴求しました。その他、医療保険、火災保険においても、テレビCMを活用し、商品の特長をお客様にわかりやすくお伝えしています。

当社は、2019年9月に創業20周年という節目を迎えました。おかげさまで契約件数は順調に伸長しており、創業以来、お客様本位の商品やサービスの提供に取り組んできたことが、多くのお客様からご支持をいただける結果に結びついているものと考えています。今後も「“Feel the Difference”～この違いが、保険を変えていく。～」というスローガンのもと、ソニー損保ならではの高品質な商品やサービスの提供を通じた顧客価値最大化の取組みを継続し、持続的な成長を目指してまいります。

取組みの成果

以上のような施策を通じて事業活動を展開した結果、保険引受収益119,747百万円、資産運用収益1,935百万円等を合計した経常収益は、前年度に比べ6,626百万円増加し、121,728百万円となりました。一方、保険引受費用82,368百万円、営業費及び一般管理費31,283百万円等を合計した経常費用は、前年度に比べ5,450百万円増加し、113,655百万円となりました。この結果、経常利益は8,072百万円と、前年度に比べ1,175百万円増加しました。これから特別損失49百万円、法人税等合計2,214百万円を控除した当期純利益は、前年度に比べ808百万円増加し、5,808百万円となりました。

■ 保険引受の概況

保険引受の概況については、主力の自動車保険の増収を主因として、正味収入保険料は前年度に比べ5.5%増加し、119,352百万円となりました。正味支払保険金は、前年度に比べ6.5%増加の60,315百万円となり、正味損害率は前年度より0.8ポイント上昇の58.1%となりました。正味事業費率は、前年度より0.2ポイント低下の27.6%となりました。保険引受利益は、増収効果や異常危険準備金の取崩しなどにより、前年度に比べ1,115百万円増加し、6,165百万円となりました。

■ 資産運用の概況

2019年度期末の総資産は、前年度末に比べ15,227百万円増加して234,870百万円となりました。このうち有価証券などの運用資産は、前年度末に比べ8,464百万円増加して186,637百万円となり、利息及び配当金収入は1,337百万円となりました。

決算のしくみ[2019年度] (単位:百万円)

<table border="1"> <tr><th colspan="2">保険引受収益</th></tr> <tr><td>正味収入保険料</td><td>119,352</td></tr> <tr><td>積立保険料等運用益</td><td>74</td></tr> <tr><td>支払備金戻入額</td><td>320</td></tr> </table>	保険引受収益		正味収入保険料	119,352	積立保険料等運用益	74	支払備金戻入額	320	-	<table border="1"> <tr><th colspan="2">保険引受費用</th></tr> <tr><td>正味支払保険金</td><td>60,315</td></tr> <tr><td>損害調査費</td><td>9,001</td></tr> <tr><td>諸手数料及び集金費</td><td>1,713</td></tr> <tr><td>責任準備金繰入額</td><td>11,338</td></tr> </table>	保険引受費用		正味支払保険金	60,315	損害調査費	9,001	諸手数料及び集金費	1,713	責任準備金繰入額	11,338	-	<table border="1"> <tr><td>保険引受に係る 営業費及び 一般管理費</td><td>31,212</td></tr> </table>	保険引受に係る 営業費及び 一般管理費	31,212	+	<table border="1"> <tr><td>その他収支</td><td>△1</td></tr> </table>	その他収支	△1	=	<table border="1"> <tr><td>保険引受利益</td><td>6,165</td></tr> </table>	保険引受利益	6,165																																
保険引受収益																																																																
正味収入保険料	119,352																																																															
積立保険料等運用益	74																																																															
支払備金戻入額	320																																																															
保険引受費用																																																																
正味支払保険金	60,315																																																															
損害調査費	9,001																																																															
諸手数料及び集金費	1,713																																																															
責任準備金繰入額	11,338																																																															
保険引受に係る 営業費及び 一般管理費	31,212																																																															
その他収支	△1																																																															
保険引受利益	6,165																																																															
<table border="1"> <tr><th colspan="2">資産運用収益</th></tr> <tr><td>利息及び配当金収入</td><td>1,337</td></tr> <tr><td>有価証券売却益</td><td>672</td></tr> <tr><td>積立保険料等運用益振替</td><td>△74</td></tr> </table>	資産運用収益		利息及び配当金収入	1,337	有価証券売却益	672	積立保険料等運用益振替	△74	-	<table border="1"> <tr><th colspan="2">資産運用費用</th></tr> <tr><td>有価証券売却損</td><td>-</td></tr> </table>	資産運用費用		有価証券売却損	-	-	<table border="1"> <tr><th colspan="2">営業費及び一般管理費</th></tr> <tr><td></td><td>31,283</td></tr> </table>	営業費及び一般管理費			31,283	-	<table border="1"> <tr><th colspan="2">その他経常費用</th></tr> <tr><td></td><td>3</td></tr> </table>	その他経常費用			3	-	<table border="1"> <tr><th colspan="2">その他経常収益</th></tr> <tr><td></td><td>44</td></tr> </table>	その他経常収益			44	-	<table border="1"> <tr><th colspan="2">経常収益</th></tr> <tr><td></td><td>121,728</td></tr> </table>	経常収益			121,728	-	<table border="1"> <tr><th colspan="2">経常費用</th></tr> <tr><td></td><td>113,655</td></tr> </table>	経常費用			113,655	=	<table border="1"> <tr><th colspan="2">経常利益</th></tr> <tr><td></td><td>8,072</td></tr> </table>	経常利益			8,072	+	<table border="1"> <tr><td>特別損失</td><td>△49</td></tr> </table>	特別損失	△49	-	<table border="1"> <tr><td>法人税及び住民税 法人税等調整額</td><td>2,214</td></tr> </table>	法人税及び住民税 法人税等調整額	2,214	=	<table border="1"> <tr><th colspan="2">当期純利益</th></tr> <tr><td></td><td>5,808</td></tr> </table>	当期純利益			5,808
資産運用収益																																																																
利息及び配当金収入	1,337																																																															
有価証券売却益	672																																																															
積立保険料等運用益振替	△74																																																															
資産運用費用																																																																
有価証券売却損	-																																																															
営業費及び一般管理費																																																																
	31,283																																																															
その他経常費用																																																																
	3																																																															
その他経常収益																																																																
	44																																																															
経常収益																																																																
	121,728																																																															
経常費用																																																																
	113,655																																																															
経常利益																																																																
	8,072																																																															
特別損失	△49																																																															
法人税及び住民税 法人税等調整額	2,214																																																															
当期純利益																																																																
	5,808																																																															

会社に対処すべき課題

当社の中長期的な課題は以下の通りです。徹底したお客様本位の高品質な商品・サービスの提供と環境変化を見据えた変革への対応により、持続的な成長と高い収益性を維持していきます。

〈中長期的な課題〉

- 主力の自動車保険の拡大に向けた商品力強化と環境変化に向けた取組み強化
- 多種目販売の強化による持続的な成長と安定的な事業基盤の確立
- カスタマーエクスペリエンスの向上を通じた顧客価値の最大化
- 先進テクノロジーの活用およびIT基盤の整備
- 事業費の的確なコントロールと健全な収益性の維持
- ERM(全社的リスク管理)の一層の高度化および経営への活用

さらに、当社はソニーグループおよびソニーフィナンシャルグループの一員として、今後ともグループ各社との連携強化を進め、お客様のニーズに合致したサービスを提供できるよう努めます。

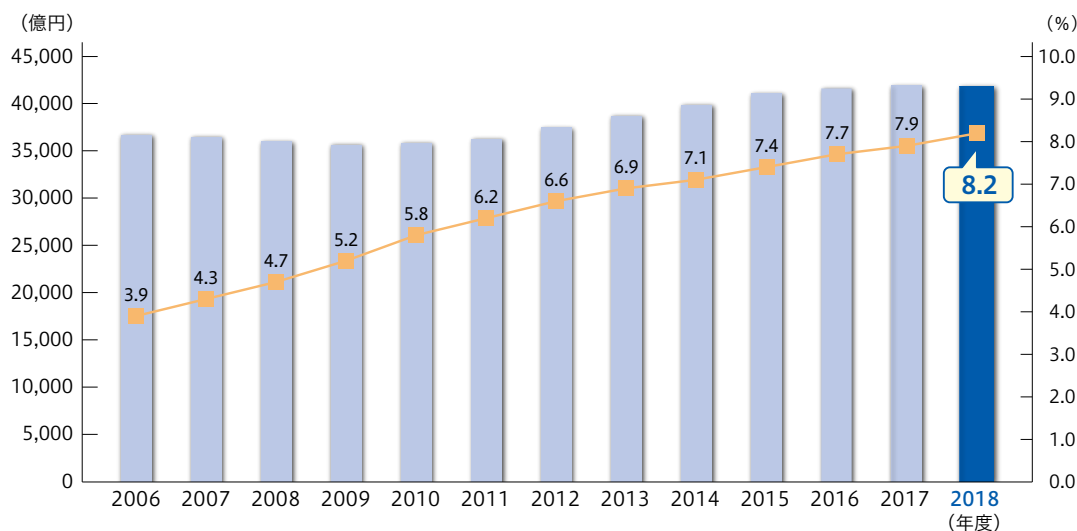
■ ダイレクト保険会社の自動車保険市場におけるシェア

ソニー損保の主力商品である自動車保険は、国内の損害保険市場で最も構成比の大きい保険種目で、業界全体の保険料収入の約半分を占めています。少子高齢化などに伴い国内の自動車保有台数が伸び悩むなかで、2019年度の業界全体の自動車保険の保険料収入は、前年度からほぼ横ばいとなりました。

2018年度末には、ダイレクト自動車保険のシェアは8.2%となって

おり、大手損害保険会社をはじめとした代理店型の保険会社と比較して割安な保険料体系がお客様に支持され、ダイレクト保険会社の保険料収入は順調に増加し、自動車保険市場におけるシェアは年々拡大しています。これからも、合理的な保険料やインターネットの利便性を求めるお客様は増えると予想されるため、ダイレクト保険会社全体の市場シェアのさらなる拡大が見込まれます。

自動車保険市場と主なダイレクト保険会社のシェア^{(*)1}



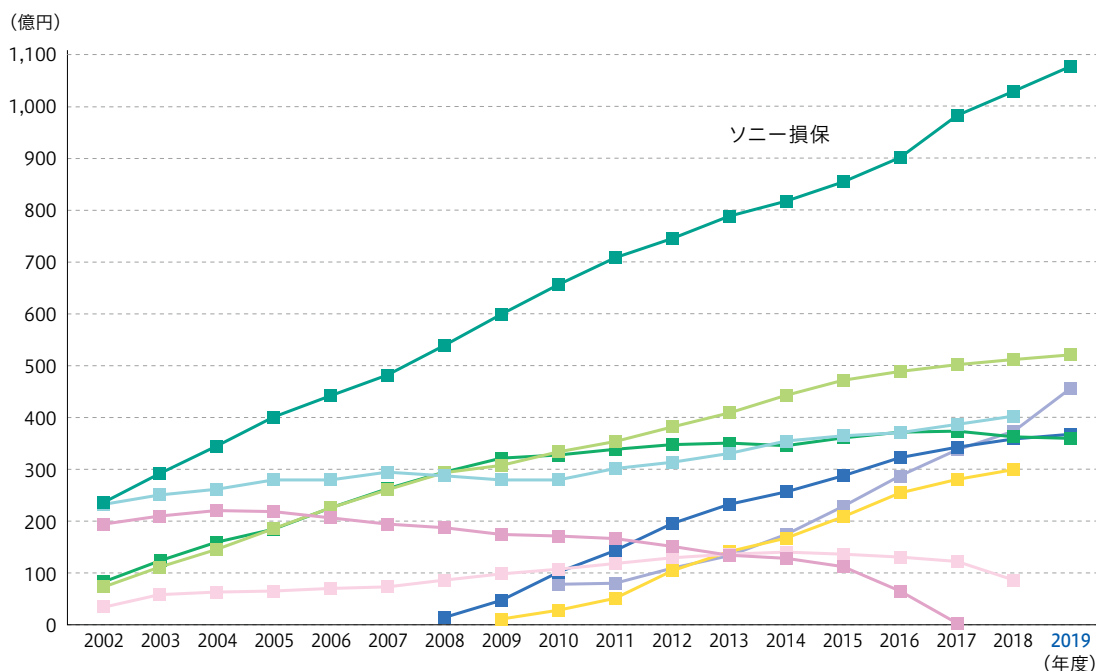
【左軸】総元受正味保険料(損害保険会社全社合計値で、自動車保険市場を示す。)

【右軸】主なダイレクト保険会社のシェア

■ 自動車保険の元受正味保険料の推移

ソニー損保は、ダイレクト自動車保険市場において2002年度に元受正味保険料No.1^{(*)2}となって以来、日本国内のダイレクト自動車保険市場をリードする会社として存在感を強めてきました。

主なダイレクト保険会社の自動車保険元受正味保険料の推移^{(*)1}^{(*)3}



(*)1 各社の公表資料などにより、ソニー損保が調査したものです。ダイレクト保険会社とは、2019年度までに自動車保険を主にダイレクトで販売している損害保険会社を指します。

(*)2 2002年度末の時点で自動車保険を主にダイレクトで販売している損害保険会社の自動車保険料収入より、ソニー損保が調査したものです。

(*)3 2019年度については、2020年6月25日までに公表された数値をもとに表示しています。